

☆生涯生活設計プログラムとは

退職後の人生を内容豊かで有意義なものとするためには、できるだけ早いうちから退職後の生活をも念頭に置いて生活設計を行い、長期的・計画的な準備をしていくことが重要となっている。そうした生活設計や準備を促すために、そのきっかけやノウハウを使用者として提供するものである。

職員が、長期的な視点に立って、生活設計や準備を行い、また、それに基づいて生活を充実させることは、職務遂行にも良い影響を及ぼし、ひいては組織の活性化にも役立つ。

働き盛りの職員を対象とするので本人の自覚を促すことに力点が置かれるが、他方において、退職に焦点を当て過ぎるあまり職員の士気や意欲に悪影響を与えるようなことのないよう配慮する必要がある。

☆対象とすべき職員

おおむね、45歳前後の職員

☆実施主体等

各省庁は、所属の職員に対し、実施する。

総務庁人事局は、プログラムの内容として取り上げるべき事項や実施方法についてさらに検討を行い、ガイドブックの作成・配布を始めとしてプログラムの実施を推進する。

☆取り上げるべき事項の例

経済問題、健康管理、生きがい、余暇の活用、家族関係、住宅、能力開発、ライフプラン

☆実施方法の例

テキストの配布、講義、事例聴取、グループ討議、夫婦の対話、自己診断、作文、瞑想、相談など、取り上げるテーマに合った方法を採用。

(出典：「生涯生活設計プログラムの考え方について（平成4年4月総務庁人事局・退職準備プログラム研究会報告）」)